

生涯にわたって 社会のいたるところで学ぶための方法序説

AIで自宅学習が増えれば、公民館利用は減りますか？

松田 道雄

提案：生涯学習事業を担当するあなた自身が、AIを活用する学習方法や、AIではなく人とながりをつくる学習体験などを日常生活で心がけ、一人の生涯学習市民の当事者としての実体験を踏まえた、AIと共生する生涯学習事業を計画していきませんか。

今回の筆者のテーマは、AI（人工知能）です。読者皆さんは、現在、仕事や日常生活の中でAIをどの程度、どのように活用されているでしょうか？ 今は、仕事でパソコンを使うのは普通ですし、年齢問わずほとんどの方がスマホを持ち、インターネットを利用しての中で、IT（情報技術）関係で現在最も話題にのぼり、ニュースでもよく取り上げられているのがAIです（AIによるニュース報道も当たり前になっています）。「AIの活用法」に関するネット動画投

稿も実に数多くあります。

インターネットの普及期にマイクロソフト社のウインドウズ95が発売されたのは、1995年です。本年が2025年ですから30年前です。当時、インターネットによって社会は大きく変わると言われましたが、何がどう変わるのか、まだピンとこないと思った人がほとんどではなかったでしょうか？

それから30年、今はどこを見渡してもネットに接続したスマホを見ている光景が当たり前になり、ネットで注文した商品を届ける宅配の車が、都市でも過疎地でもいたることで見かけます。筆者の自宅の近くのパン屋さんは主婦の方が週2回開いて、SNSで本日の商品メニューをあげてネットで予約をとっています。売り切れのお知らせもSNSで発信します。30年前にはなかったビジネススタイルです。私たちの学習スタイルも変わりました。何か調べたいことは、

病気のことで何でも、まずはネットで調べることは当たり前になりました。日曜大工などもネット動画を探せば、一般市民の投稿動画が次々出てきて、それらの動画を再生確認しながら作業をすることが出来ます。犬を飼っている人や犬に興味ある人は、飼っている犬の日常の暮らしを動画投稿している誰かの動画を見ることができ、連絡することもできます。

新型コロナウイルス感染拡大の時には、誰でも（高齢者でも）ワクチン接種の予約はスマホからしなければなりませんでした。インターネットの使い方は、学校教育で学ぶことなく、誰もがある程度何とはなしに習得しています（製造企業は誰もが操作できるように開発しているので普及しているわけです）。

インターネットが登場する前は、専門的な情報や知識は専門家に聞かなければわからず、情報を提供するのには、テレビ局や

新聞などのマスメディアが役割をはたし、皆が同じ番組を見て共感していました。大衆社会と言われていました。今は、皆がそれぞれスマホを見ていても見ている中身は皆違い、誰もが情報発信者にもなり、それで収入も得ることもできます。目の前にいる人たちは個々にバラバラのようでも、それぞれがネットで見えないどこかの誰かとつながっている。それが現在の社会です。

このような急激な情報技術の変化は、同じ時代、同じ空間にいつしよに住んでいても、世代によって、身につける思考様式・行動様式の違いを生んでいます。X世代（1960年代前半頃～1980年代前半頃）、Y世代（1980年代後半頃～1990年代前半頃）、Z世代（1990年代後半頃～2010年代前半頃）は、ネットの活用について世代の特徴があると言われています。ネットバブルと言われた200

0年前後に成人になったY世代（ミレニアム世代）は、パソコンでインターネットを活用してきた世代であり、次のZ世代は生まれた時からスマホやインターネットが身近なデジタルネイティブ世代で、SNSの活用が得意な世代です。

さらに、2010年以降生まれの世代は、a世代と言われています。筆者はX世代なので、この30年間（これから）、ITの進化に悪戦苦闘しながら自己学習しています。今回は、X世代の筆者の苦勞の一旦も含めて、現在ITの大きな飛躍になっているAIの活用についていっしょに考えてみましょう。

10年ほど前まで、ITが進歩すればするほど、なくならずに必要とされる職業分野と言われていたプログラマーは、AIの登場によって、AIにとって代わられる仕事の1つとされ、実際にそうなりつつあると報告されています。今はAIにとって

代わることが難しいと言われている人相手の仕事も、遠くない将来、AIが進化して感情を持ち、自ら考え行動し、それを搭載した人型ロボットが普及すれば、さらに現在の人の役割はなくなっていくことでしょう。AIの加速的な進化は、人間のあり方を根本的に変えていくと言われています。

さて、本連載のタイトルは、筆者がAIに尋ねた問いです。公民館職員の方などは、すでにAIに質問しているかもしれません。読者皆さんは、この質問にどう答えるでしょうか。

世界では、AIの普及によつてすでに求人が減っている業種も出ているというニュースもあるので、人が学ぶ場である公民館も影響が出ないことはないでしょう。この質問に対してAIは回答の冒頭に、「とても良い質問ですね。」とほめてくれました。続いて、「一般には『自宅で調べられるから、公民館利用は減る

のでは』と考えられがちですが、実際には少し複雑です。」と回答してくれています。この質問は複数のAIに問いました。

AIは、ネット上にある情報から推論して回答をまとめます。公民館に関するネットの情報は情報全体からすればわずかでしようから、どのAIの回答もほぼ似たような内容でした。結論は、ただ知識や情報を得るだけの学びであれば、わざわざ公民館に足を運ぶ必要性がないので利用の減少が予想されるが、公民館側が役割を変化させていくことで利用者を開拓していくことができるという主張をしています。

つまり、「人と人が出会い、交流できる『地域の居場所』『コミュニティの場』にする。そのための料理教室など体験活動ができる場にする。さらには、AIの活用も体験活動と組み合わせる学習の場にする。」といったことを回答してくれているのです。さらに親切にも、「ご希望なら、

『AI時代に公民館が存続・発展するための戦略プラン』も具体的に提案できますが、深掘りしてみますか？」と最後にコメントがあり、私が「具体的な戦略プランを教えてください」と尋ねると、「待ってました」とばかりに、5つの項目でプランを整理提示してくれました。

さらに、「ご希望であれば、これを『実施ステップ（短期・中期・長期）』に分けてロードマップ化することができますが、そうしますか？」と言ってくれます。何とも親切な対応です。人に質問してもここまで親切に教えてくれる人はなかなかいないでしょう

こんな風にして、パソコンに向かいながらAIとのやりとりが続いて、質問への回答を体裁よくまとめてくれます。60歳をとくに過ぎた筆者にとつて、この歳になってAIが出てきたので、自分なりに使い方を学ぶしかありません。いろいろAI

に質問してみると、質問のしかたによって回答が微妙に異なることに気づきました。そこで、ネット投稿動画でAIの使い方を視聴すると、指示・命令を意味するプロンプトが重要であることを知りました。指示を明確に段階的に掘り下げて問うことで、AIはよりの確な回答をしてくれるというのです。

社会教育関係者にとつてAIの影響を考えていくのに、本題の質問はほんの現象面での質問です。より根源的な問いがあります。それを尋ねてみました。

次の質問です。「何でもAIで自己学習することが普及することによって、これまでの学習や学び方・教育は、どのように変わりますか？」読者の皆さんは、どう考えますか？

AIは回答の冒頭で、「とても重要な問いですね。」と前置きをして、いくつかの観点で整理し列記してくれました。かつて、AIが登場する前、さらにはイ

ンターネットが登場する前は、一般の人にとつて調べるのが大変な内容については、その分野の専門家が多くの文献を整理してまとめたレジュメや講義がありがたいものでしたが（今も名残りとして行われていますが）、

現在は、誰もが手元のスマホのAIアプリに問いかければ、即座に整理して画面に表示してくれます。この重要な問いの回答も、ここに記すことはしませんが、皆さんそれぞれAIで確認してみてください。教育や学習に携わる方にとっては必須ですし、そこには教育者の役割の変化もしつかり述べられています。

AIは役立つと言つても、こうして指示の出し方を何度も変えて深掘りしてと、ひたすらパソコンやスマホの画面を凝視し時間を費やすのもどつと疲れま

す。果たして、AIは私たちを幸せにしてくれるでしょうか？これはAIと共生する究極の質問の一つかもしれません。AIは、何と答えてくれるでしょう？最後に、AIにこのことはまだ確認していませんが、筆者なりの考えと実践をちよつとだけ紹介して終えます。

AIによる自己学習が普及すれば、公民館は人とのつながりの場、体験活動やコミュニケーションづくりの場に転換していくというAIの回答でしたが、とすれば、そこで学ばなければならぬ必須学習は、人との会話法です。AIを上手く活用している人ほど、AIへの指示・命令（プロンプト）に長けます。

しかし肝心なことは、人（相手）はAIではない、ということとです。人にも同じように指示・命令ばかりしていたら？人と人がつながるのは、指示ではなく〇〇（図1、図2）。これをちゃんと身につける場が、これからの学校や公民館の大切な学習になるのではないのでしょうか？もう一つ。人とつながるとはどういう感覚なのか？ AIと

図1 AIをよりよく活用するには？

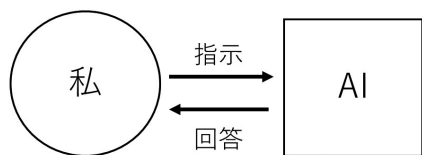
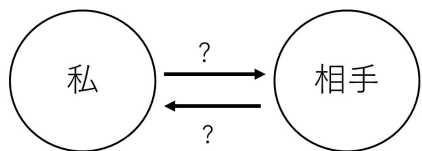


図2 人とよりよい関係をつくるには？



ではなく、人との関わりを通して学ぶことはどんな学びなのか？ コミュニティとは具体的にどういうもの・ことなのか？ 教育や学習に携わる人にとって、他人事のように解説することはAIがちゃんとしてくれるので、求められるのは、誰もが一人の学習者として、自分自身の生活時間の中で、上記にかかわることを実体験し、その実体験から得た気づきを自分のことばで語り、AIの解説の中に位

置づけることではないかと筆者は考えます。写真は、今年の酷暑の夏、朝5時～6時、前記についての実体験として筆者が試みたことです。キーワードは、「空き家・花・野菜・会話・おすそ分け」です。誌面の余裕がなくなりましてので、関心ある方には、メールなどでお伝えします。猛烈に進歩するAI社会に生きる私たち、お互いに実践し、思案し合いましょう！ 皆さんの知恵も教えてくださ

い。全国の生涯学習事業担当の皆様で、AIと共生する講座のアイデアを考えたい方がいらつしゃれば、筆者もアイデア談義参加します！ 次回12月号寄稿は、中泉理奈さん（荒川区区

域文化スポーツ部生涯学習課社会教育主事）です。（まつだ・みちお AIと共生する生涯学習事業計画づくり応援します！） 尚綱学院大学教授（宮城県） m_matsuda@shokei.ac.jp



行政関係者のための 新訂 入門・生涯学習政策

- 第1章 生涯学習とは？
- 第2章 日本の生涯学習の特徴
- 第3章 生涯学習の概念整理
- 第4章 なぜ生涯学習社会が必要か？
- 第5章 生涯学習と行政の役割
- 第6章 生涯学習と学校の役割
- 第7章 生涯学習行政の課題
- 関係する用語の定義・概念

著／岡本 薫 ISBN-7937-0129-C3037

2022年2月28日発行（第7刷） A5判 112頁

定価／1320円（本体1200円） 送料／215円

30ページ～32ページ：「リカレント教育」とは？

107ページ：「リカレント教育」とは、本来「還流する（流れが戻ってくる）」という意味であり、教育の分野では「学校に戻る」ことを意味する。

※本来の意味、拡張された意味がある。

書店または直接日本青年館
TEL 03-6452-9021 FAX 03-6452-9026 までご注文下さい。